保育士の職業性ストレスとバーンアウトの関係について

○赤田太郎¹・滋野井一博²・小正浩徳³・友久久雄²

¹龍谷大学短期大学部・²龍谷大学文学部・³龍谷大学臨床心理相談室

キーワード: 保育士, 職業上のストレス, バーンアウト

Nursery Teacher's Mental Health : Work Stress and Burnout

AKADA Taro¹, SHIGENOI Kazuhiro², KOMASA Hironori³, TOMOHISA Hisao²

(¹Faculty of Social Welfare, Ryukoku Univ. Junior College, ²Faculty of Letters, Ryukoku Univ., ³Psychological Clinic, Ryukoku Univ.)

Key words: Nursery Teacher, Daily Hassles at Work, Burnout

目 的

近年, 保育士は少子化による子育て支援の充実や, 統合保育による障がい幼児への対応, 複雑化する社会構造による家庭教育の崩壊への対応など, 様々な役割が期待されている。その中で保育士の業務は増大し, 大きなストレスを抱えている。その中で, 若手保育士が採用されても長続きせず退職してしまうバーンアウト(Burnout)が問題になっている。

本研究は, 保育士の職業性ストレス(Daily hassles at work)がバーンアウト要因にどのような影響を与えているかを調査することで, バーンアウト要因の軽減に必要なストレス要因の視点を明らかにすることが目的である。バーンアウトに至るストレス要因が明らかになることで, 保育士はそのストレスへの対処を積極的に行うことができると考えられる。

以上より, 保育士の職業性ストレスとバーンアウトの関連性を調査することを本研究の目的とする。

方 法

1. 対象者

研究に協力する許可をいただいた京都・奈良・大阪・兵庫に居住する保育士 86 名(女性 86 名, 男性 0 名)を対象に実施した。調査時期は 2009 年 7 月 20 日から 9 月 30 日である。

2. 方法

①質問紙 職務上の日常ストレス:保育士ストレス評定尺度(Nursery teacher's stress scale : 以下 NTSS とする; 赤田,2010 印刷中)。バーンアウト:Pines のバーンアウトスケール改訂版(Pines's Burnout Scale);以下 BM とする; 佐藤ら,1996)を用いた。両尺度とも, 悪化することによって得点が高くなる。

②分析 それぞれの下位尺度間の関連を調査するために, NTSS と BM との相関係数を算出した。次に, NTSS を独立変数に, BM を従属変数としたモデルを設定し, ステップワイズ法による重回帰分析によって, モデルを検討した。

結果と考察

NTSS と BM の各尺度に対して相関係数を算出した結果を Table 1 に示す。給与待遇を除いたストレス要因とバーンアウトに有意な関連性が見られた。最も関連が高いものは, 子ども対応・理解であった。次に高いものは職場人間関係であった。以上より, 子どもや職員関係にストレスを抱えている人が体の疲れやすさ, 不安, 否定された気分などで構成されるバーンアウト要因を同時に感じていることが明らかとなった。他の保育士ストレスにおいても中程度の相関関係が見られており, 給与待遇のストレスを除いておおむねバーンアウトとの関連が見られることが示されている。NTSS を測定した際に得点が高い場合に

	BM
I 子ども対応・理解	.55**
II 職場人間関係	.46**
III 保護者対応	.27*
IV 時間の欠如	.36**
V 給与待遇	.18
VI 保育所方針とのズレ	.33**

** $p < .01$ * $p < .05$

は, そのストレスマネジメントを実施し, バーンアウトを予防しなければならぬことを示している。

次に, NTSS を独立変数に, BM を従属変数として重回帰分析をした結果を Table 2 に示す。ステップワイズ法による各モデルの重回帰係数を算出したところ, I と IV によって予測されるモデル 2 の重回帰係数が高いため, モデル 2 を採択した。モデル 2 における標準化係数と VIF を算出した結果を Table 3 に示す。VIF が 10 未満であるため, 多重共線性に問題はみられなかった。本研究の結果, 子ども対応・理解のストレスによるストレスは, 保育士のバーンアウト要因に影響と与えることが明らかとなった($\beta = .49, p < .01$)。また時間の欠如によるストレスについてもバーンアウトの原因となることが示された($\beta = .22, p < .05$)。

Table 2
各モデルの重回帰係数とF値

モデル	モデル集計 ^{c)}		分散分析 ^{c)}		
	R	R ²	F 値	有意確率	df
1	0.55 ^{a)}	0.30	36.62	.00 ^{a)}	84
2	0.59 ^{b)}	0.35	22.27	.00 ^{b)}	83

^{a)} 予測値: (定数), I。

^{b)} 予測値: (定数), I, IV。

^{c)} 従属変数: BM

Table 3
標準化係数とVIF

モデル	標準化係数 ベータ	VIF
2	I 子ども対応・理解	.49**
	IV 時間の欠如	.22*

従属変数: BM

** $p < .01$ * $p < .05$

以上から, 保育士の主な業務は子どもの保育であるため, 子どもに対して対応が分からなくなったり, 理解できない子どもがいると, 保育士としての能力が問われることにつながる。これが結果的に体調不良や気分の落ち込みといったバーンアウト症状に至ると考えられる。また, 時間の欠如のストレスについて, 保育士は事務的作業や勤務時間の休憩がないなどの忙しい状況によってそれに耐えきれず, バーンアウトしてしまうのではないかと考えられる。先行研究において, ストレス反応との関連の中で憂うつ感の原因となることが示されており(赤田,2009), 働き過ぎによるバーンアウトと憂うつな気分などには注意する必要があるだろう。

引用文献

赤田太郎(2010).保育士ストレス評定尺度の作成と信頼性・妥当性の検討.心理学研究,81(2).印刷中。
赤田太郎他(2009). 保育士の勤務上の日常ストレスがストレス反応に与える影響について. 日本心理臨床学会第28回大会発表論文集, p.434